

2019年9月12日  
日本銀行福岡支店



*Bank of Japan Fukuoka Branch*

---

# 九州・沖縄の金融経済概況

(2019年9月)

---

当資料は当店ホームページに掲載しています <http://www3.boj.or.jp/fukuoka/>

<内容に関するお問い合わせ先> 日本銀行福岡支店営業課 Tel : 092-725-5513



## 1. 総論

○ 九州・沖縄の景気は、緩やかに拡大している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかに増加している。公共投資は、高水準で推移している。設備投資は、増加している。住宅投資は、低金利環境等を背景に、高水準で推移している。輸出は、総じてみると弱めの動きとなっている。

こうした中で、生産は、総じてみると弱めの動きとなっている。雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。

先行きについては、緩やかな拡大が続いていくことが期待されるが、海外経済を巡る不確実性の影響や、人手不足が供給面に与える影響等に留意する必要がある。

### <景気判断の前回との比較>

| 項目    |      | 基調判断                                   |  |
|-------|------|--|--|
|       |      | 前回                                     | 今回                                     |
| 景気全体  |      | 緩やかに拡大している。                            | 緩やかに拡大している。                            |
| 需要項目  | 個人消費 | 雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかに増加している。             | 雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかに増加している。             |
|       | 住宅投資 | 低金利環境等を背景に、高水準で推移している。                 | 低金利環境等を背景に、高水準で推移している。                 |
|       | 公共投資 | 高水準で推移している。                            | 高水準で推移している。                            |
|       | 設備投資 | 増加している。                                | 増加している。                                |
|       | 輸出   | 総じてみると弱めの動きとなっている。                     | 総じてみると弱めの動きとなっている。                     |
| 生産    |      | 総じてみると弱めの動きとなっている。                     | 総じてみると弱めの動きとなっている。                     |
| 雇用・所得 |      | 労働需給は着実な引き締まりを続けており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。 | 労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。 |

## 2. 個人消費

- 個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかに増加している。

### ▽個人消費関連の動向

|        |                       |  |
|--------|-----------------------|--|
| 非耐久消費財 | 百貨店売上高                | 振れを伴いつつも全体として持ち直している。  |
|        | スーパー売上高               | 底堅く推移している。   |
|        | コンビニエンスストア売上高         | 振れを伴いつつも新規出店効果などから増加している。  |
| 耐久消費財  | 家電販売                  | 白物家電やテレビを中心に買い替え需要が広がっていることから、増加している。                            |
|        | 乗用車新車登録台数<br>(含む軽自動車) | 新型車投入効果から緩やかに増加している。   |
| サービス   | 旅行・観光                 | 当地発の旅行取扱額は、持ち直している。この間、観光面では、一部に弱めの動きがみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。 |

## 3. 住宅投資

- 住宅投資は、低金利環境等を背景に、高水準で推移している。

7月の新設住宅着工戸数は、貸家の減少を主因に前年を下回った。

## 4. 公共投資

- 公共投資は、高水準で推移している。

7月の公共工事請負金額は、国や市町村発注分の増加を主因に前年を上回った。

## 5. 設備投資

- 設備投資は、増加している。

7月の建築物着工床面積（民間非居住用、後方3か月移動平均）は、前年を上回った。

## 6. 輸出

- 輸出は、総じてみると弱めの動きとなっている。  
7月の輸出額（九州経済圏）は、前年を上回った。

## 7. 生産

- 生産（鉱工業生産）は、総じてみると弱めの動きとなっている。

### ▽主要業種の生産動向

|                  |   |
|------------------|---|
| 輸 送 機 械          | 自動車は、海外向けを中心に高水準で推移している。船舶は、受注残の減少により、生産水準が低位で推移している。 |
| 電子部品・デバイス        | 車載向けは堅調ながら、スマホ向けを中心に弱含んでいる。                           |
| 汎用・生産用<br>・業務用機械 | 半導体関連向けを中心に弱めの動きとなっている。                               |
| 化 学              | 国内向け、新興国向けを中心に高水準で推移している。                             |
| 鉄鋼・非鉄金属          | 自動車向けを中心に高水準で推移している。                                  |
| 食 料 品            | 弱含んで推移している。   |

## 8. 雇用・所得

- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。  
労働需給をみると、有効求人倍率は高水準で推移している。  
6月の雇用者所得総額は、現金給与総額の減少を主因に前年を下回った。

## 9. 物価

- 7月の消費者物価（九州地区、生鮮食品を除く総合）は、前年を上回った（7月：＋0.6%）。

## 10. 金融

- 7月の預金残高をみると、個人預金や法人預金を中心に前年を上回った。
- 7月の貸出残高をみると、法人向けや個人向けを中心に前年を上回った。
- 8月の企業倒産をみると、件数・負債総額ともに前年を下回った。

以 上